提携に至る経緯

昭和５２年（１９７７年）１０月に、大分日本ポルトガル協会が設立された際に、アンドラーデ駐日ポルトガル大使からアベイロ市との姉妹都市提携の申し入れを受けました。

大分市は約４５０年前の大友宗麟公の時代から、ポルトガルとの交流を通じて貿易、宗教にとどまらず、医学、音楽、教育等幅広い分野で西洋文化が花開きました。現在、市の木であるホルトノキもポルトガル人により移植されたものであるといわれています。大分市がポルトガルとゆかりのある都市であることとアベイロ市が海岸に面し、観光、商業都市で類似点も多い都市でありましたことから、昭和５３年（１９７８年）１月に、大分市長名の書簡を大分日本ポルトガル協会会長（株式会社大分放送取締役社長）羽田野孝貴氏に託し駐日ポルトガル大使館において、手渡し、大分市の意向を伝えました。

昭和５３年第１回大分市議会定例会において、姉妹都市提携を進める旨の報告を行いました。

同年５月には、学会の出席のために渡欧した大分市在住の古沢毅医師に、アベイロ市長あての姉妹都市提携促進方についての大分市長のメッセージと市勢要覧、３月議会の市長提案理由説明を託しました。同年６月に、アベイロ市長が古沢医師に口頭で積極的な賛意を表しました。

また、駐日ポルトガル大使館を通じて、アベイロ市より「アベイロ千年の歩み」「アベイロの守護神サンタ・ジョアンナ王女の像」「アベイロの運河で使われるモリセイロ（舟）の模型」「観光パンフレット」が届けられました。同年８月には、アベイロ市長からアベイロ市の幹部会が全員一致で姉妹都市提携を望んでいる旨の書簡を受理しました。

昭和５３年（１９７８年）１０月、佐藤大分市長を団長とする大分市姉妹都市提携訪問団（２９名）がアベイロ市を訪問し、同月１０日、佐藤市長とペレイラアベイロ市長が姉妹都市提携共同宣言に署名し、正式に姉妹都市の提携を行いました。